
ヘンゼルと迷いみこ

絢無晴蘿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヘンゼルと迷いみこ

【Zコード】

Z4015BA

【作者名】

絢無晴蘿

【あらすじ】

みなさん、世の中って不思議なことが沢山ありますよね？

そうなんです。

わたし、いま取つても不思議なんです。

え？

話がよくわからない？

私もわからないんです。

なぜか私、記憶喪失で生き靈になつていきました。

「 ジャック・オ・ランタン 」

ジャックとキャンドゥイー

第一話 ジャックとキャンドゥイー

みなさん、世の中って不思議なことが沢山ありますよね？
そうなんです。

わたし、いまどつても不思議なんです。
え？

話がよくわからない？
私もわからないんです。

なぜか私、男の子の前に立っていました。

「よひーん、ジャック・オ・ランタンに」

本や小物、筆記具や紙、そのほか様々な物が置かれて雑多な机に肘を置いて、少年は私の方を見て言いました。

綺麗なオレンジ色の髪には、なぜか女の子がつけるようなピンがつけられています。

そして、真っ黒なコートを着ていました。

まあ、家の中でコートなんて、暑くないのかしら？

「あら、ここのはどうなんでしょう？」

どこかの部屋のようです。

少年の座った後ろの壁には、古びた本がほこりをかぶつて積み上げられていました。

まあ、ずいぶん汚い事つ！

掃除していないのでしょうか？

「随分戸惑つているようですね。しかし、大丈夫ですよ。みなさん、最初は戸惑うのですから」

「そうですか？私としては、この部屋の汚さが気になつて氣になつて……ああつ、水で流してしまいたいっ！！！」

するととつぜん、少年は不機嫌そうな顔をしました。

「あなた、だれ？てかオレ、お前に話してないから。ほら、そこじやま」

「あら？」

後ろを向くと、私の姿に気づいていないのか、やつれたお父さんのような男の人が、少年の前に歩いて来るところでした。

思わず、少年の前をその人に譲つて上ります。

まあ、私つて優しい人。

「もうしわけない。私はどうしてここにいるのだろうか」

おやまあ、この人もどうしてここにいるのか分からないようです。

「大丈夫ですよ。では、最初の違和感を話してもらいましょうか？」

男の人は、驚いたようです。

「なぜそれを？」

「ここに来る人は、大抵そうですから」

「……」

どういう事なのでしょうか？

男の人は、つらそうに言いました。

「おかしいんです。妻も、娘を、私の事を無視するんです。突然」

「そうでしょうね。それで？」

「なぜか、私の前で泣くんです。みんな、私を見て泣くのです」

「……」

「わからないんですね。どうしてつ、どうしてつ……どうして、私はここにいるのですか？」

「それは、あなたの魂が道に迷つてしまつたからです。あなたの目の前にある、黄泉路に至る道に気づいていないからです」

そういうて、男の子は立ちあがりました。

「あなたは、もう死んでいます」

「そう言うと、男の人は、ぼうぜんと顔を上げました。
「なにを言つてあるんですか？」

「あなたは、もう生きている唯人には見えない存在なのです。魂だけで、彷徨つてゐるのです。自分が死んだことに気づかず。自分が逝くべき道も知らず」

「……」

「でも、もう見えるでしよう？　あなたの前に広がる道が」
「……そう、ですね。嗚呼、私は……そうか、そうだったのか。す
まない。お前たちだけを残して……」

そう言つと、男の人は消えてしました。

呆気なく、消えてしました。

本当に、呆気なく。

「あら……」

「の方は、死者？」

「さてと。で、あんた誰？」

「あらあら。私は……さあ、誰でしょう？」

「ふざけてんのか？」

「いや、ふざけてないわ。あら、でも、あなたは誰ですか？」

男の子は、思いつきり嫌そうに顔を見ました。

「オレの名前は、ジャックだ」

ジャック君、ジャック君。

よし、覚えたわ！

「なるほど。ところで、スパロウ君。ここのはどこなのかしら？」

「オレの問いに答える氣あるのか。あと、オレの名前はジャックだ」

「そんなんに眉間にしわを寄せていると、ザビエル禿げになってしま
いますよ？」

あら大変。

ザビエル禿げは、一部の人には人気はあるけど、一部の人にはうざが
れてしまうわ！

若いのに、なんて大変なことなんでしょう。

苦労しているのね。

「な、なんでそんな事になる……」

「おかしいかしら?」

「おかしい! ! !」

この人はきっと、ザビエル禿げが嫌いな人なのね。

「ところで、先ほどの男の人は、どうして消えたのかしら?」

「……死んだことを自覚したから、行くべき所に逝ったんだよ

「まあ」

あの人は、やっぱり死んだ人だったの。

「で、お前、名前と、なんでここにいるのか答える?」

「名前……じゃあ、私の名前はキャンティーよ」

「じゃあ?」

「そう。あとね、間違つてもキャロットって言わないでね。私、二

ンジン嫌いなのよ。あ、でも飴も嫌いだわ。どうしましょう?」

「つっこみどころがありすぎて、ビックに突っ込んだらいいのか分からぬ」

「それは、大変ね」

「……」

あら、なんで黙つてしまつたのかしら。

「お前、靈だつて自覚ある?」

「あら?」

何を言い出すのかしら。

「生き靈だつて、自覚あるのか?」

「いき、りょう?」

なるほど。

「だから通り抜けができるのね! すげい、すごいわ、私! ! !」

「えつと、あつと……なんだつて言つんだ、この人つ? ! !」

こうして私、キャンティーと、ジャックは出逢つたのです。

登場人物

ジャック・オ・ランタン

主人公

キャンディー

語り手

ジャックとキャンティー（後書き）

ジャックとキャンティーの物語。
ちょっとした長編になりますが、よければお付き合ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4015ba/>

ヘンゼルと迷いみこ

2012年1月10日16時47分発行